広報 なりた 新生成田の創造

相撲場と県神社

成田歴史玉手箱

●51回●

歴史と伝統文化のまち・成田。市内には、歴史ある文化財が多数あります。

大袋の朝角力

歴史ある伝統行事を地域で継承

午前6時過ぎ触れ太鼓が響きわたる中、幼児からお年寄りにいたるまで大経寺（大袋）奥の県神社（現五社神社）に集まります。そこで行われるのは小学6年生以下の男子による朝角力。これまで8月24日に執り行われていましたが、今年から24日に最も近い日曜日（今年は21日）に変更になりました。朝角力の歴史は大変古く約300年以上も前から行われ、江戸時代には佐倉藩の家老格の者も見物に来るほど盛大だったと伝えられる行事です。

熱戦を繰り広げる豆力士

県神社はこの地域に住む丸氏の祖先、丸伊豆守信幸らが天正七年（1579）に上総国山辺郡土気（現在の千葉市）から大袋に移り住む際、一族の氏神として土気にある県神社の分霊を移して安置したと伝えられる神社です。その昔、この朝角力は村人が神社へ奉納する神事相撲として行われていたといいます。しかし今では大経寺の施餓鬼法要の前に行われる奉納相撲として、子どもだけの相撲へと変わりました。

大一番に勝って賞品を受け取るチビッ子力士

相撲の取り組みはその年の最年少の子どもによる一番から始まります。順次、低学年からの一番勝負、そして三人抜き、五人抜きなどの勝ち抜き戦が行われます。参加した子どもたちにはおもちゃなどの景品が配られ、土俵のまわりでは闘志あふれる豆力士の戦いや微笑ましいちびっ子たちを写真やビデオで撮りながらの応援合戦が繰り広げられます。

相撲はさしたる道具も必要なく、狭い場所でもできるので古くから市内各地で盛んに行われていたようです。また、夏行事の一つで、藁で編んだ大綱を子どもたちが担いで新盆の家々を練り歩く「盆綱」では、すべての行事が終わるとその綱を土俵代わりにして相撲を行った地域が少なくありません。今では相撲行事も含め幼児からお年寄りまでが一堂に会し、交流をもつという機会が少なくなりました。「歴史ある地域の行事を大切にしたい」と大経寺の檀家らで大袋朝角力保存会が結成され300年の伝統が継承されています。

編集後記

7月15日号の本欄で農村部の祇園祭について触れましたが、本号表紙の荒海地区の祭も典型的な水田地帯の祇園祭です。酒の入った若者たちが担いで歩くわけですから、道路沿いの田畑に踏み入れたり垣根を壊したりは仕方のないところ。神輿に余計な飾りが無いのも、このような「荒揉み」に備えてのこと。特に同地区では田んぼの中に神輿を放り投げるという荒技を披露。聞くところによると、ことしは広報課のカメラを意識してか投入回数も多目だったようです。

広報なりたは再生紙（古紙配合率100%・白色度70%）を使用しています。